

授業科目の区分等：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4年	2	必修
担当教員			
松元 一明			

授業のねらい（概要）	演習では、「経営学卒業研究Ⅰ」を通して得た知見を基に、各自が選択したテーマについての卒業論文を執筆、完成させる。以上の学修を通じて、ディプロマポリシーに記載のある「大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢」を学生が身に付けることをねらいとしている。
授業計画	<p>「経営学研究法」「経営学課題研究」を通して得た、地域づくりやまちづくりなど、市民による公益的な活動の知識と実践知を通して、卒業研究、卒業論文執筆に準備にあたり、卒論のアウトラインの完成を目指す（後期の「経営学卒業研究Ⅱ」における卒業論文執筆のための準備を万全にする）。</p> <p>具体的には以下のことを進めていく。</p> <p>(1) 卒業論文のテーマ設定（問い、主張、論拠を含む） (2) 卒業論文に関する研究計画書の作成 (3) 卒業論文のテーマに関する先行研究の文献収集と読解、先行研究の調査、分析 (4) 卒業論文のアウトラインの完成</p> <p>予習（時間）：卒業論文作成に関する文献読解、卒業論文のテーマに関する文献、資料の収集、レジュメ作成など。（60～120） 復習（時間）：卒業論文執筆に関する個別課題など。（60～180）</p> <p>卒業論文の中間発表、フィールドワークのために、夏季休暇中にゼミ合宿をおこなう（関東近郊、2泊、交通費10,000円以内、宿泊費20,000円以内）</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	DP（小学科）の1項目を意識した科目となっている。 4. 大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢 DP（経営学科）の1項目を意識した科目となっている。 2. 地域における経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を多面的に理解し、活用できる能力
到達目標	(1) 卒業論文執筆を通じて、社会への問題意識をもち、自らが問いを立て、主張を行うことができる。 (2) 卒業論文執筆を通じて、先行研究や事例などの情報を収集、分析する能力を身につける。 (3) 卒業論文の執筆を通じて、自らの考えを論理的に表現することができる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	提出された課題については、修正などの記入の上返却する。
履修上の注意	毎回、卒業論文の進捗状況の確認を行うので必ず出席すること。就職活動等を理由に欠席することも含め、欠席の際には必ず事前連絡をすること。
成績評価の方法・基準	フィールドワークやイベント参加を含めた学修意欲（20%） 卒業論文（60%） その他（課題の提出、発表）（20%）
教科書	新版 論文の教室 レポートから卒論まで 著者名：戸田山 和久 著 出版社：NHK出版 発行年：2012年 価格：1200円（税別）
参考書・教材	【参考書】資料やレジュメなどは適宜配布する。
備考	演習科目
教員との連絡方法	「Melly」ならびに「メール」（アドレスは授業内で周知）